

流山フィルハーモニー交響楽団 第62回定期演奏会

シューベルト  
ドボルザーク

交響曲第5番  
交響曲第7番

2023年12月10日(日)  
13:30開場 14:00開演  
スターツおおたかの森ホール  
前売り 900円 当日 1,000円  
・全席自由 ・中学生以下無料



指揮 佐藤雄一



## チケット販売

スターツおおたかの森 1階インフォメーション

## チケット予約/お問合せ

インターネット予約 「流山フィル」で検索

または<http://nagareyamaphil.g2.xrea.com/index.html/>

メール ryuphil\_info@yahoo.co.jp

電話 090-8744-1570 (小林)



こちらのQRコード  
からも予約できます

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪ 演奏曲目 ♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

フランツ・ペーター・シューベルト (1797年1月31日 - 1828年11月19日)

交響曲第5番 変ロ長調 D485

シューベルトといえば「未完成」が有名ですよね。今回演奏する交響曲第5番は「未完成」より6年前の1816年に作曲された曲で、当時シューベルトは19歳、このころシューベルトは学校の先生を辞めて作曲家として本格的に活動を始めたようです。でも最初から成功する人なんてほとんどいませんよね。シューベルトも演奏会で稼いだり、楽譜を売ってもうけることもできず苦勞したのですが、そんなシューベルトを助けてくれたのは周りの友人たちでした。泊るところや食料も用意してくれて、そんな友人たちに恵まれなければのちの名曲も生まれなかったかもしれません。まさに「持つべきものは友」ですね。全部で4楽章のオーソドックスな編成で、30分弱の演奏が多いのですが、指揮者の佐藤先生は繰り返しを全部やるフルバージョンが基本的なスタイルなので、今回もすべての繰り返しをたっぷりお聴きいただきます。第3楽章はモーツァルトの交響曲第40番の第3楽章とそっくりで、モーツァルトへのオマージュかも。シューベルトらしい優美で繊細な旋律をお楽しみください。(演奏時間：約33分)

アントニン・レオポルト・ドボルザーク (1841年9月8日 - 1904年5月1日)

交響曲第7番 ニ短調 作品70 B.141

もともとボヘミア(現在はチェコ共和国)の小さな村の肉屋に生まれたドボルザークは、たまたまお父さんが音楽好きで音楽の方面に進むことができたので偉大な作曲家のひとりになっていますが、親の稼業を継いで肉屋になっていてもおかしくありませんでした。学校の音楽室に貼ってある肖像画をみてもいかにも肉屋のオヤジという雰囲気ですよ。そんなドボルザークですが、30代半ばころから国際的にも知られる作曲家として活躍していたので、わりと早くから成功した人といえるでしょう。交響曲第7番を完成させたのは44歳のときでした。全部で4楽章の曲ですが、全体的に暗くて重い雰囲気がただよっているように感じられます。かつて領土を守るために地元から起こった宗教戦争からインスピレーションを得ているからかもしれません。また1800年代中頃には鉄道網が発達してきたこともあり、ドボルザークはかなりの鉄道マニアだったことが知られています。列車の時刻表や運転士の名前まで暗記していたというのですから、完全に今でいう鉄オタですね。そんな鉄道の刻むリズムが曲のどこかにまぎれているかもしれません。(演奏時間：約40分)

【参考資料】ウィキペディアほか

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪ 指揮者紹介 ♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪



佐藤雄一 (Sato Yuichi)

国立音楽大学教育音楽学科第I類卒業。大学在学中に室内オーケストラ「アマデウス・アンサンブル」、合唱団「コレギウム・ヴォカール東京」を組織して指揮。小林道夫氏からは「音に対してこれほどまでに具体的なイメージを持てることは驚異的」との讃辞を受ける。また若手プロ演奏家による「NENDOオーケストラ」を組織して指揮。1999年にパリ・エコール・ノルマル音楽院指揮科に学び、一年後には音楽院初となる飛び級で高等ディプロムを取得し首席で卒業、音楽院史上最高得点に対し審査員特別賞を授与される。流山フィルでは十年以上に渡って数多く指揮している。

☆次回第63回定期演奏会は2024年6月9日(日) 流山市文化会館で開催の予定です!

流山フィルは団員募集中です。お気軽にお問い合わせください(弦楽器大歓迎!)  
メール ryuphil\_info@yahoo.co.jp

会場のご案内

- つくばエクスプレス・東武アーバンパークライン「流山おおたかの森」駅北口より徒歩1分
- 駐車場の台数が大変少ないため、出来る限り公共交通機関をご利用ください。



※スターツおおたかの森ホールより許可を得て掲載